

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2003.3

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 227

日本野鳥の会 埼玉県支部

地鳴き雑記

小林みどり（神奈川県大和市）

鳥の地鳴きは、あまり注目されることがない。さえずりのように、思わず聞き惚れるメロディがあるわけでも、一度聞いたら忘れられない強烈な個性があるわけでもない。単なる小さな音にすぎない。しかし、さえずりの期間に限られているのに対し、地鳴きは1年中。鳥にとっては重要な情報交換の手段になっているはずだ。鳥をよく知るためには、もっと注目されてもいい。それに地鳴きに耳を傾けるのも、結構いいものである。鳥を求めて先へ先へと進みたがる足をとめ、ひと呼吸して、耳をすます。自分の足音が消えただけでも、周囲は静けさを増し、だんだん小さなつぶやきが聞こえてくる。なにか、気持ちも和んでくる。いわば“癒し系自然観察”。気がつくと、小声でおしゃべりを交わしながら、鳥たちがすぐ近くまで来ていたりする。

晩秋のある朝。寒い～眠い～起きたくない～と布団の中でグスグスしているところへ聞こえてくる、あの声。冷たい空気に染み透る、少し哀愁を帯びたヒッヒッヒッ…気がつけば、いつのまにか布団を飛び出し窓を開けて、双眼鏡をつかんで近所中のアンテナを探し回っている。私にとっては、どんな目覚ましよりも効果的なジョウビタキの地鳴きである。

同じ頃、高い山から平地に降りてくるルリビタキも似たような声を出す。両者のヒッヒッヒッ…は、どう違うか？ 【野鳥識別ハン

ドブック（初版）』（高野伸二・著）にはヒッヒッの間隔がルリビタキのほうが短い、と書いてあるが、そう言われればそんな気もする。ジョウビタキのヒッヒッのほうが、何となく歯切れがいいという人もいるが、そう言われればそんな気もする。要するに微妙なのである。聞き分けがむずかしいヒッヒッのほかに、ジョウビタキはカッカッ、とかカタカタといった乾いた感じの声も出す。一方、ルリビタキはグググッ、ギョギョと濁った声。この声が聞こえれば、かなり確実に識別できる。

そもそも両者は、生息環境が違う。ジョウビタキは畑、林縁など明るく開けたところ、ルリビタキは森の中の溪流沿いなど薄暗いところ。と、決め付けていたら…この冬はやたらにルリビタキが多く、いろんなところにルリビタキがいる。先日は市街地の小さな公園の広場で、ルリビタキ（♂若鳥）とジョウビタキ（♂）が同じ木にとまっているのを見た。地鳴きを聞き比べるチャンス！と待ち構えていたら、ルリビタキの奴、地鳴きどころか気持ち良さそうにさえずり始める。ジョウビタキはむっつり黙り込んだまま、そのうちプイッと退場…世の中、思うようにいかないものだ。

ツグミのクィクィ、クワクワという地鳴きは、よく晴れた冬の朝によく似合う。冬の冷気が、そのまま音になったような声である。冷えきった大気を引き裂いて、あの声がひびいてくると、まるで号令をかけられたように、ぴりっと気持ちが引き締まる。それだけ緊張感のある、鋭い声である。

この声といい、いつも胸を張ったあの姿勢といい、一分のスキもない鳥かと思うと、そうでもない。何かに驚いて急に飛び立つときは、何とも滑稽な声を出す。クワッキャキャ？ オッキョッキョ？ 字ではうまく表せないが、聞いているほうが驚くような素っ頓狂な声である。この声とともに、じたと飛び立つ。飛び立った先の枝で、まだ興



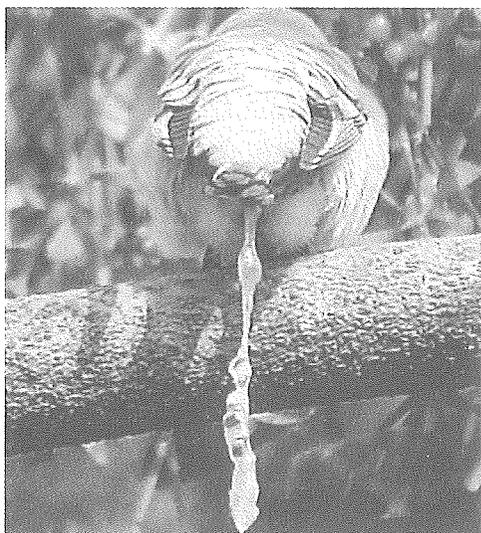
(富士鷹なすび)

奮さめやらずクワクワとかキョキョとか奇声を発しながらも、姿勢だけは例の偉そうなポーズ。この慌てぶりと、いつもの緊張感あふれる姿の落差が大きくて、なんともおかしい。

冬の権化のようなクィクィ、クワクワという声は、季節が進むにつれて変わってくるように思う。空気を切り裂くような鋭さが影をひそめ、どこことなく柔らかみを帯びてくるのである。艶っぽくなっていく、と言ってもよい。3月末のある日、聞きなれない美声にふと足をとめる。さえずりというには拙く、1フレーズ歌っては一息いれ、また1フレーズ歌う。その合間に時折、すっかり艶っぽくなったクィクィ、クワクワが入るので、歌い手がわかる。ツグミのさえずりの練習、つまり、ぐぜりである。冬の権化はこのとき、春告げ鳥に変わり、そして、夏の使者としてシベリアへ旅立つ。

その昔、大久保農耕地や秋が瀬では、冬季、いろいろなホオジロ類がいた（今でもいるかもしれないが）。ホオジロ、アオジ、カシラダカをはじめ、オオジュリン、コジュリン、ミヤマホオジロなど。ビギナーだった私は、何がなんだかわからなかったが、鳥の先輩が「まずホオジロの地鳴きを覚えなさい」と教えてくれた。ホオジロ類の地鳴きは、ほとんどがチッという一声だが、ホオジロはチッチとかチチチッという2、3声の連続音を出すので、わかりやすい。実際、ホオジロか否かという判断が出来るようになったら、他の鳥も何となくわかってくるようになった。と同時に、“チッチときたらホオジロ”というキャッチフレーズが、神経伝達経路に完全にインプットされてしまったらしい。

このインプットされたキャッチフレーズのために、思いがけない間違いをすることがある。ある日、雑木林の林縁でチッチという声を聞いた。何の疑いもなくホオジロだと思い、樹上の鳥影に目を向けると、何かおかしい。肥満体である。何だ、このホオジロは？と双眼鏡で見たら、シメだった。このように、時々シメとホオジロがわからなくなってしまう。両者の声は、音質が全く違う。どちらも字で



今日も快便！ ヒレンジャク（池内輝明）

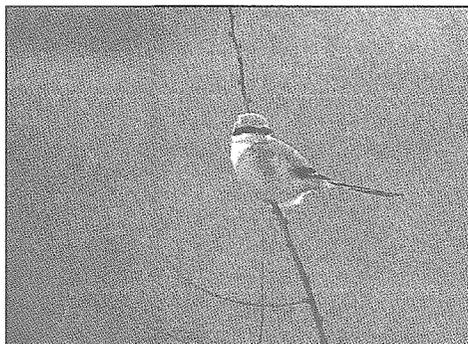
表せばチチッとなるが、シメの声はホオジロよりも鋭く、はじけるような音で、むしろピチッといったほうが近い。声を聞いてすぐに、シメだとわかることもあるが、どうかすると混乱する。

これは、私の脳がシメの声をどう処理するかによるのではないか、と思っている。おかしな処理をせず、聞こえてきた声の音質そのもので判断すれば、間違うことはない。ところが何かの具合で、その声がチチッという文字情報に変換されることがあり、そうすると例のキャッチフレーズに従って、ほとんど反射的にホオジロという答えが出てしまうのかもしれない。要するに条件反射？ 何だか自分が、イヌか何かみたいなのがしてきたところで、ちょうど紙面が尽きてきた。

地鳴きの話の最後にひとこと、お願い。地鳴きは警戒の意味を持つことが多い。特に、立て続けに鳴いたり興奮気味だったりしたら、警戒であると思ってよい。そして多くの場合、警戒の対象は観察者自身である。こういうときは、姿を確認しようなどと深追いはせず、出来るだけ早くその場から離れてやってほしい。鳥のためだけでなく、私たちが末永く鳥を楽しむためにも。

野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会



●オオカラモズ

分類 スズメ目モズ科モズ属

英名 Chinese Great-grey Shrike

学名 *Lanius sphenocercus*

2003年1月2日(木) 上武大橋上流の利根川南側(埼玉県側)河川敷で発見されました。翌3日以降北側河川敷に移って多くの人によ

って継続観察され、この写真は1月18日(土)菱沼一充幹事が撮影したものです。

最初発見された南側は、群馬県の県境が食い込んでいる部分で、埼玉県側ではありませんが群馬県佐波郡境町に属します。その後南側の葦原が焼き払われたために、オオカラモズが再び南側に戻る可能性は低い状態とのことです。

本種は過去県内での観察記録はありませんが、委員会としては、12月号のコグンカンドリと同様、県内で観察されたという明らかな情報がないと、県内野鳥リストに追加するのは難しいと考えています。県内で観察したという情報をお持ちの方は、お知らせください。この冬、なぜか国内数カ所で本種の観察情報が相次いでいます。

長野県 白馬山麓探鳥会

金子 昭三(吹上町)

その日は心配の雨雪もなく、秋真盛りの湿原や林は文字通り黄金色に染まり、素晴らしい雰囲気でした。

リーダーの樹木、草、昆虫に至るまでのレクチャーは、自然を知り、自然の不思議さを、偉大さを実感できました。

2日目、朝起きるとかなりの雪。宿舎「にほめの一步」の窓の外には、アカゲラ、アオゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイス、カケス、それにタヌキまで来る賑わい。そんな中での朝食はとても楽しく、昨夜のアルコールも一気に抜ける感じでした。宿舎のまわりでの探鳥は、雪で昨日以上の収穫は望めずということで、新潟の朝日池へ……。

水面にはマガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、オオバン、ハシビロガモ、カンムリカイツブリ。岸边にはダイサギ、アオサギ。上空にミサゴ、トビ、ハヤブサなどで大賑わい。でも肝心のマガン、オオヒシクイは出ず。

でもバスが2kmも走らないうちに、まわり

の田んぼの上空に50~100羽単位のマガンの移動が目撃され急停車。その目の前にマガン、オオヒシクイが何百羽の群で採餌しており、その中に夢にまで見たハクガンが一羽、我々を歓迎するかのようにじっと動かず、ふと見上げるとコハクチョウの一群の通過など…。

白馬連山のモルゲンロートは次回の楽しみとして、温泉あり楽しい夕食あり、そして終って見れば58種もの野鳥にあうことができた最高の探鳥会でした。

初めての戸隠・飯綱高原

赤堀 尚義(さいたま市)

探鳥を始めてやっと3年目、そろそろ里の鳥達への挨拶も一通り済み、高原の鳥達に会いたくなり秋の戸隠探鳥会に夫婦揃って参加となった。

鏡池はすっかり晴れ渡り、青い空に戸隠連峰の稜線がくっきりと浮かび、湖面は、紅葉した木々と荘厳な山の姿を映していた。対岸近くにヒドリガモが数羽、その右手にカイツブリが、大きな魚を飲み込むのに一苦労していた。記念撮影をして戸隠森林植物園に向かう。

10分程歩いたあたりでカラの混群に出会う。どこに合せていいのか迷いながらも、エナガ、ゴジュウカラ、コガラ、コゲラを確認。他にシジュウカラ、キバシリも観察された。ハンノキのてっぺんに、マヒワが数羽飛び回っていた。紅葉した落ち葉を踏みしめ歩いては立ち止まり、リーダーの見る方を真似ながら目を凝らし、耳を澄まして、森林植物園の入り口広場へ向かう。途中、アカハラ、シロハラ、マミチャジナイ、コゲラ、アオゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、キビタキ、カラ類、ヒヨドリを堪能。

食事の後は奥社随神門付近へ。午前中に馴染みになった鳥の声を聴き、姿を見ながら、水芭蕉のこみち、小鳥のこみちをゆっくりと歩く。途中ルリビタキの声、イカル、キクイタダキ、盛んに大声で鳴くカケスを見ながら随神門先に着く。休憩の後、みどり池へ向かう。晴れた青空も雲がかかり、寒くなる。早めに森林学習館に入り迎えの車を待つ。

翌日6時集合で早朝探鳥。宿の玄関先で、柿の木のアカゲラ、電線のヤマガラ、杉の木のホオジロに朝の挨拶。宿のすぐそばの田んぼでヒヨドリ、イカル、ホオジロ、ビンズイ、マヒワ、トビ。宝光社の森、本殿前でキジ、ゴジュウカラ、コガラ、シジュウカラ、コゲラ、マヒワを観察。杉木立に囲まれた空に、マヒワが100羽を越えそうな群れで乱舞する姿は感動的だった。

朝食後、昨日と同じく森林植物園へ。すっかり初体験の緊張がほぐれ、昨日とは違った気分で鳥の声を聴き、鮮やかな姿と色を堪能。時間を忘れてリーダーの後を追う。今回の目玉でもあるムギマキについて出会い、色の鮮



ムギロ (編集部)

やかさ、ホバリングしながら実を採る姿に、しばし見入ってしまう。昨日出会った鳥たちとの再会を楽しみながら、もみの木園地へ。ここでウソ、ミソサザイに会い感激。黄葉したカラマツの落葉が、小雪のように微かな音を立てて降るカラマツ園地の中を、マイナスイオンのシャワーを浴びながら、みどり池へ向かう。バスを待つ間、戸隠連峰の姿をしばし眺める。昼食後の中間鳥合せは45種となる。

お世話になった奥田旅館を後に、今回最後のポイント、大谷地湿原、大座法師池へ。大谷地湿原を一周し、カシラダカ、アオジ、エナガなどを観察。大座法師池ではカルガモ、セキレイ3種類を観察。この4種を加え2日間で49種を観察し終了した。

栃木県・日光東照宮裏山探鳥会

期日：3月23日(日)

集合：午前9時15分、東武日光駅前。集合後バスにて「総合会館前」まで移動。

交通：東武伊勢崎線春日部駅7:42発「快速」で日光駅9:11着、または栗橋駅7:42発に乗りし板倉東洋大前駅で8:09発「快速」に乗換え。

解散：午後2時頃 日光東照宮前

担当：玉井、田中、中里、福井

見どころ：大谷川の神橋から東照宮裏山に入って川沿いに滝尾神社に寄ります。杉の大木や落葉樹の林と溪流で定番のカワガラス、ミソサザイの他に山の鳥達を探しながら東照宮へ戻ります。

行田市・さきたま古墳探鳥会

期日：3月30日(日)

集合：午前9時30分、県立さきたま資料館前レストハウス

交通：JR高崎線吹上駅北口より、朝日バス行田車庫(佐間経由)行き、8:52にて「産業道路」下車、徒歩15分。

担当：内藤、岡安、和田、立岩、石井(博)

見どころ：春ですよ！身も心も軽やかになる季節になりました。鳥の世界は冬鳥、夏鳥の交代のとき、背すじを伸ばして出かけてみませんか。



さいたま市三崎 ◇11月19日、見沼代用水西縁でアカモズ1羽を目視(小荷田行男)。

さいたま市秋ヶ瀬公園 ◇10月22日、野鳥の森でアオバトの声を聞く(小荷田行男)。

岩槻市加倉5丁目 ◇11月21日、自宅の庭の方から「ジジジッ」と聞き慣れない声だったので窓から見てみると、ウグイスが1羽、ライラックの木にいて、枝渡りをしていた。塀の下には、ノラネコがいた。あの声は、ウグイスの警戒音だったのだろうか(藤原真理)。

戸田市/さいたま市彩湖 ◇12月1日、ハヤブサ1羽、ホオジロガモ♂エクリプス1羽、ミコアイサ♀1羽(小林みどり他3名)。
◇11月29日、北側葦原でヤブサメらしき個体を3m程の距離で肉眼で見ました。「チャッチャッ」とウグイスの地鳴きの様な声を耳にし、背の低い葦原に2歩程踏み込むと、目の前に幅1.5m位の水がいっぱい溝があり、向こう岸は葦が密生していた。小さな木もあり、その地上50cm~1m位の枝・茎づたいに移動し、茂みへ入る。一瞬、メジロかと思ったが、場所が変。眉斑が白く明確、尾が短い。ウグイスよりメジロの色に近い。直感的にヤブサメだ!と思ったが、夏鳥のはず……。帰宅後すぐに凶鑑で確認したが、山溪カラー名鑑「日本の野鳥」のヤブサメに類似していた(陶山和良)。

蓮田市黒浜沼周辺 ◇11月26日、上沼でカル



ジョウビタキ(久保田忠資)

ガモ約150羽、ウジャウジャいた。よく見るとマガモ♂3羽♀6羽が混在。12月5日、アカゲラ♂1羽。12月10日、療養所内でアオゲラ♂1羽、「ピョー」と鳴いているので、口笛でまねたら応答してきた。アカハラがさえずっていた。ルリビタキ♀2羽。ハイタカが地上50cm程の高さですぐ後ろを横切って藪に入り込んでいった(鈴木紀雄)。
春日部市内牧 ◇11月28日、葦原脇にカスミ網が張られ、ホオジロ♀各1羽がかかっているのを発見。警察に来てもらい、証拠写真を撮ってから放鳥した。網は警察の方で没収(鈴木紀雄)。

岩槻市岩槻文化公園 ◇11月29日、アリスイ1羽、アトリ1羽など32種を確認。12月5日、アリスイが葦原から道をはさんで反対側の木にとまり、さらに茂みの中に消えた。元荒川でヒドリガモの群れ中にヨシガモ♂1羽、エクリプスから繁殖羽になりかけて何だか変なカモ。12月6日、オオタカ若鳥1羽、カラスの群れに追われ、元荒川沿いに北へ。カワセミ2羽。セグロカモメ成鳥1羽、川面に降りていた。12月9日、オオタカ成鳥1羽、積雪の中、歩いて行くと木から飛び出し、飛翔。上面の青灰色、腹の細かい横縞等美しかった(鈴木紀雄)。

越谷市県立健康福祉村 ◇12月22日午前8時30分、公園内の池でユリカモメ71羽乱舞。池に降りた時にカウントした。ゴイサギ72羽までカウントしたが、葦の中、正確な数はカウントできなかった。100羽以上池に入っていると思われる。池は半分水が入っていて、半分は葦、ガマ(小菅靖)。

桶川市川田谷 ◇11月28日、タゲリ40~50羽、この地区の東端を南北に流れる江川では、過去ずっとタゲリが現れる地点として有名だったと伺っておりますが、現在この地区ではいつでもどこかにブルドーザー等の建設機械が動き、大型ダンプが土砂を運んでいるせいか、少なくとも昨シーズンはとうとう1羽の姿も見ることができませんでした。本日、自転車でこの区域に近づいた時、やや南寄りの上空に40~50羽の、黒い翼の鳥が波立つ様に舞いながら更に南に向かっ

ておりました。大きさはカラスよりやや小さく、一瞬カラスの群れかと思わせる黒い姿ながら、時折白が入ったりするのを観て、タゲリと直感しました。但し、姿はゆっくり遠のく方向に進んでいましたので、見逃すのかと、少々残念な思いで見守っておりました。すると、暫くして次第にこちらに戻ってくる雰囲気に転じ、待つこと10分ばかりで桶川西中学校の東よりの田んぼに降りました。はるばる遠距離をここまで来たばかりだったのか、まだ少し緊張している様子でした。何とか彼らが落ち着いてこの冬をこの田んぼで過ごしてくれればよいと念じております。それにしても、鳥たちはかなり保守的な生活区域維持者なのだと、改めて実感しました（宮田雄幸）。

渡良瀬遊水地 ◇11月13日、ハクチョウ類3羽が南西へ飛び去っていった。ハイタカにコチョウゲンボウが上空でつかかっていた。コチョウゲンボウは計4羽確認。チュウヒ4～5羽で少ない。夕刻、ハイイロチュウヒ♀4～5羽の増入り。♂は確認できず。11月30日、ミサゴ2羽、ノスリ1羽、チュウヒ約5羽。ハイイロチュウヒ♂が時間をおいて、1羽、1羽、2羽、1羽の順に出現。重複もありそうだが3個体か？ハイイロチュウヒ♀2羽、コチョウゲンボウ2羽（鈴木紀雄）。

嵐山町嵐山溪谷周辺 ◇11月16日午前9時30分～午後1時30分、「緑のトラスト3号地」でイカル、シメ、アオゲラ、アカゲラ。ルリビタキ1羽、カシラダカ約20羽、ツグミ、ヤマガラ、エナガ、シジュウカラ、コゲラの混群など30種確認（後藤康夫）。

川本町芳沼 ◇11月23日午前8時15分～9時15分、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨ



ゴイサギ若鳥（松村禎夫）

シガモ、カワウ、カワセミなど13種（後藤康夫）。

川本町荒川明戸堰上流 ◇11月23日午前9時30分～11時30分、ツグミ約100羽、林や河原に群れていた。コハクチョウ約70羽、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ホオジロガモ♂♀各1羽など28種確認（後藤康夫）。

坂戸市千代田公園 ◇11月27日午前11時頃、アトリの群れが木から木へ、枝から枝へと行動し、♂♀混じりの10羽。坂戸市での自己初認（増尾隆）。

騎西町下崎 ◇11月30日、県道上の電線及び畑でミヤマガラス約300羽の群れ中にコクマルガラス約20羽。内1羽のみ淡色型（鈴木紀雄）。

本庄市坂東大橋下流 ◇12月22日午後2時頃カモ類を見た帰路、ハイイロチュウヒ♂1羽、河原から飛び出して、土手を越えてキャベツ畑の上をひらひらと飛び回った。カモはマガモ、オナガガモ、コガモが中心。ヨシガモ、オカヨシガモも多い。ヒドリガモ♂1羽、カワアイサ♂1羽♀6羽（新井巖）。

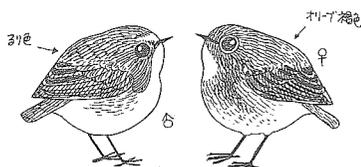
表紙の写真

マヒワ（スズメ目アトリ科カワラヒワ属）

国内でも少数繁殖するが、主に冬鳥として10月上旬に日本に渡来し、5月上旬までいることがある。群れでいることが多い。マツ・スギ・モミ・オオシラビソ・コメツガ・ハンノキ・ミヤマハンノキなどの種子を好むが、ススキ・アレチマツヨイグサなど、草の種子も良く食べる。チュイーンまたはジュイーンと細い声で鳴き交わす。ヒワ、ヒワコ、ホンヒワなどの俗名がある。

写真・外園たけの（春日部市） 解説・編集部

行事案内



ルリビタキ (富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般 100 円、会員と中学生以下は 50 円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後 1 時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集場所までお出でください。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：3月2日（日）

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

解散：正午頃

担当：玉井、田中、中村（栄）、吉安、榎本（健）、長嶋、長野、松永

見どころ：厳しい冬が終わりを告げる時期と成り、鳥達も旅立ちの準備に忙しい季節となります。沼、葦原と屋敷林の鳥を探します。

玉淀河原探鳥会

期日：3月2日（日）

集合：午前9時、秩父鉄道寄居駅南口付近。

交通：秩父鉄道熊谷駅8：17発、東武東上線川越駅7：37発。

担当：小池（一）、堀（敏）、堀（久）、井上、喜多、大澤、新井（巖）、羽入田

見どころ：お目当てはヤマセミでしょうか。他にもいろいろな野鳥にも会えます。早春の草花の観察もいかがでしょう。

加須市・はなさき公園探鳥会

期日：3月8日（土）

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅南口、または午前9時はなさき公園駐車場。

交通：JR宇都宮線大宮8：01発→久喜8：22着にて、東武伊勢崎線春日部8：14発→久喜8：28発に乗り→花崎8：39着

解散：正午頃

担当：中里、玉井、長嶋、田村、四分一、宮下

見どころ：冬鳥達が帰り支度を始めています。

感謝をこめて見送しましょう。水温む青毛堀川に沿って春めく陽の中、野辺の草花をながめながら小さな春を探してみませんか。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月9日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷駅9：11発、又は寄居駅8：49発に乗り。

解散：正午頃

担当：和田、森本、中里、後藤、石井（博）、倉崎、高橋、藤田、栗原、飛田、大澤

見どころ：コハクチョウはじめ、冬鳥も北へ飛び立つ季節です。例年、アトリ、ミヤマホオジロ、レンジャクに出会うのもこの時期です。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：3月9日（日）

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場。

担当：工藤、兼元、日根、森（力）、吉岡（洋）、松村、百瀬、渡辺（嘉）、赤堀

見どころ：春まだ浅い見沼たんぼに梅の香りが漂います。そんな早春のつかの間、旅立つ冬鳥達を見送しましょう。

松伏記念公園探鳥会

期日：3月9日（日）

集合：午前9時30分、松伏町の松伏記念公園北側入口駐車場横の広場。

交通：東武伊勢崎線の北越谷駅東口、1番バス乗場で8時50分発「エローラ行」に乗車、松伏高校前下車すぐ。

解散：正午頃、集合地の駐車場。

担当：田邊、橋口、神場、大塚、小菅、上澤、吉岡（明）、野村、本田

見どころ：天然記念物シラコバトは宅地化に伴い減少していますが、必ず見られます。地元の公民館と共催です。

「しらこぼと」袋づめの会

期日：3月15日（土） 午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：最初に目を通すのは「やっぱり、次の行事案内かな」。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：3月16日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。又は午前9時、さいたま市立浦和博物館

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、森（力）、小菅、新部、赤堀、兼元

見どころ：桜の花はまだかな。代用水の桜並木にも春がやって来た。コブシ、モクレン、レンギョウの花々。三室の里はいいところだ。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：3月16日（日）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8：13→坂戸にて越生線乗換え8：42発。または寄居7：53→小川町乗り継ぎ、坂戸にて越生線乗換え。JR川越線大宮7：35→川越にて東武東上線乗換え。

解散：12時30分頃

担当：藤掛、高草木、池永、久保田、佐藤（壮）、杉原、志村、増尾、藤澤、山田、池内、原

見どころ：暦の上では、啓蟄（けいちつ）も過ぎました。鳥好きの皆さん、清流にダイビングする青い鳥を探しに、御出掛け下さい。

宝登山探鳥会

期日：3月16日（日）

集合：午前9時15分、秩父鉄道長湍駅前

交通：秩父鉄道熊谷駅8：17発、東武東上線川越駅7：37発。

担当：小池（一）、佐久間、青山、井上、堀（敏）、堀（久）、堀口、喜多、大澤

見どころ：ウソ、マヒワなどの野鳥、スマレ、チョウジザクラ、ミヤマウグイスカズラなどの春の花も楽しいですよ。

秩父市・羊山公園探鳥会

期日：3月21日（金・祝）

集合：午前9時30分、西武鉄道西武秩父駅前

交通：西武鉄道所沢8：04発快速急行で9：14着。または秩父鉄道熊谷8：17→寄居8：45→御花畑9：24着、徒歩5分で西武秩父駅前へ。現地集合の方は、午前9時45分、公園入口近くの大駐車場。

担当：海老原、佐久間、福井、青山

見どころ：運が良ければ赤・青・黄色の小鳥たち。はずれると……。落差の大きい探鳥地です。杉花粉対策をしっかりと。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：3月23日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口

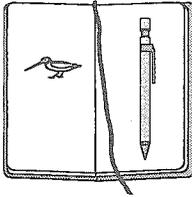
交通：西武新宿線本川越8：43発、所沢8：36発に乗車。

解散：正午頃、稲荷山公園。

担当：長谷部、高草木、藤掛、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）、石光、山田（義）

見どころ：鳥たちのさえずりも聞こえてくる頃となり、野山を歩くのが楽しくなってきました。3月の恒例、ツバメとカタクリを見る会です。

→5ページに続く



行事報告

11月17日(日) 富士見市 柳瀬川

参加: 49人 天気: 曇

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ
カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ チ
ョウゲンボウ キジ イカルチドリ イソシギ
タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト
カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ
セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジ
ョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ
カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ
シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラ
ス ハシブトガラス (39種) ジョウビタキの道案
内で始まる。期待されたタゲリは現れなかったが、
タシギが団体訪問者に目をパチクリ。カワセミが
来るようになったのがうれしい。(高草木泰行)

11月21日(木) 栃木県 奥日光

参加: 24人 天気: 晴

ハジロカイツブリ アオサギ オシドリ マガモ
オカヨシガモ ヒドリガモ ホシハジロ キンク
ロハジロ スズガモ ホオジロガモ ミコアイサ
カワアイサ トビ オオバン アカゲラ コゲラ
セグロセキレイ カワガラス ミソサザイ ツグ
ミ キクイタダキ コガラ ヒガラ シジュウカ
ラ ゴジュウカラ キバシリ カシラダカ アト
リ カワラヒワ オオマシコ カケス ハシブト
ガラス (32種) 心配された積雪もなく、空気は冷
たいが穏やかな日となる。人影まばらな大自然の
なかを、散策するだけでも何という贅沢だろう。
今回いちばんの目的はオオワシだが、午前中の目
撃情報はあったものの、我々の前には姿を見せな
い。帰路に着くバスを、「来年もまた来れば……」
と鹿の小群が見送ってくれた。(榎本秀和)

11月23日(土、休) さいたま市 見沼自然公園

参加: 33人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサ
ギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ

オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンク
ロハジロ オオタカ ハイタカ チョウゲンボウ
バン オオバン キジバト カワセミ コゲラ
ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバ
リ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウ
グイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオ
ジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクド
リ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) ど
んよりとした曇り空の下で開始。紅葉が一部まだ
雑木林に残っていた。途中、農業用水路でカワセ
ミを観察している時、すぐそばの植木畑にアトリ
が現れ、皆びっくり。当コースでは初観察。上空
にはオオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウも出現
し、又、見沼自然公園の池では、カモ8種が身近
に観察できて初心者に喜ばれた。(工藤洋三)

11月23日(土、休) 春日部市 内牧公園

参加: 39人 天気: 曇

カワウ コサギ チョウゲンボウ キジ タシギ
キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグ
ロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウ
ビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジ
ロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズ
メ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブ
トガラス (27種) スタート前に珍しくタシギが2
羽上空を通過。幸先がよい。いつものように公園
の池近くで時間をとり、ツグミ、シメ、ジョウビ
タキなどを皆でじっくり見る。せせらぎの近く
でホオジロ、アオジ、チョウゲンボウ、更に歩を
進めるとキジ、モズが出てくれる。田んぼでは
いつものヒバリ、タヒバ리를観察する。今回初め
て春日部市報に開催案内を載せ、10名の参加者が
あり、今後も続けたいと思う。(吉安一彦)

11月24日(日) 本庄市 坂東大橋

参加: 10人 天気: 小雨後曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガ
モ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ

ヒドリガモ オナガガモ キンクロハジロ ミコアイサ カワアイサ チョウゲンボウ コチョウゲンボウ キジ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ホオジロ カシラダカ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (34種) 小雨が上がると、オオジュリン、カシラダカと冬の小鳥が姿を現してきた。河原ではカモがひととお見られた。ミコアイサ、カワアイサの姿も。そして、フィナーレはコチョウゲンボウの出現。(北川慎一)

11月24日(日) 狭山市 入間川

参加: 20人 天気: 小雨

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ キンクロハジロ トビ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ ウミネコ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 多分雨は降らないだろうと、雨具は折りたたみ傘だけにした。開始早々雨が降り出し、傘と三脚で両手がふさがる危ない格好に。自然を相手に油断は禁物。反省。(長谷部謙二)

(訂正: 9/22入間川の報告でアカゲラを初記録としたのは誤り。99年1月にも記録されていた。)

11月30日(土) 蓮田市 黒浜沼

参加: 51人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ コジュケイ キジ バンキジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 小学生6名の参加で和やかな雰囲気。黒浜沼上沼、芦原、雑木林と農村風景を楽しみながら鳥を探した。途中の枯れ草にカシラダカ、ホオジロ、アオジ等が群がっており、みんなの足がストップ。好天気にも恵まれて気持ちよい探鳥会だった。(玉井正晴)

12月1日(日) さいたま市 民家園周辺

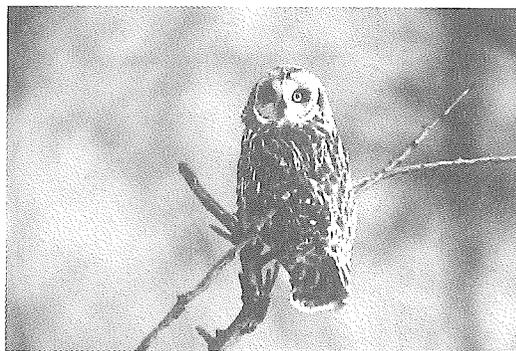
参加: 30人 天気: 小雨時々曇

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ユリカモメ キジバト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 小雨が降ったり止んだり。どうかなと思ったが、30人も集まっていたので出発。鳥が少ないと聞いていたが、ツグミはいつになく多かったし、シメ、ジョウビタキ、カワセミも全員でじっくり見られたし、ベニマシコの声を聞いた方も。なお、交通機関の情報に誤りがあり、ご迷惑をお掛けしたことをお詫びします。(伊藤芳晴)

12月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 12人 天気: 曇

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ イカルチドリ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 早朝まで冷たい雨。実施が危ぶまれたが、曇りながらも雨は降らず。出発してすぐ、ツグミ、シメ、ジョウビタキ等冬鳥が姿を見せる。参加者が少なかつたこともあり、ゆっくり、じっくり観察できた。最終地点の河原ではタヒバリやカモを観察。山野、水辺の鳥を観察でき、このコースのすばらしさを実感していただいたと思う。(後藤康夫)



コミミズク (菱沼一充)

連絡帳

●「干潟を守る日 2003」に参加します

諫早湾が閉め切られた 1997 年 4 月 14 日を忘れず、全国の干潟・湿地の保護運動を広げる「干潟を守る日」全国キャンペーン。

キャンペーン期間中、干潟・湿地に関係した当支部の行事は、4 月 6 日（日）の渡良瀬遊水地と 5 月 5 日（祝）の谷津干潟探鳥会。これらを参加行事として、干潟や湿地の重要性について考えます。

●公開シンポジウム「日本の渡り性水鳥の保全ーアジア太平洋地域渡り性水鳥保全戦略への日本の取り組みー（仮題）」

日本とオーストラリアが中心になって「アジア太平洋地域渡り性水鳥保全戦略 1996-2000」がまとめられて以降、1996 年に東アジアオーストラリア地域シギチドリ類重要生息地ネットワーク、1997 年に北東アジア地域ツル類重要生息地ネットワーク、1999 年に東アジア地域ガンカモ類重要生息地フライウェイネットワークが発足し、2000 年には「アジア太平洋地域渡り性水鳥保全戦略 2001-2005」がまとめられました。

各ネットワークの活動状況や保全計画について報告するシンポジウムが開催されます。

環境省主催、(財)日本野鳥の会共催

日時：3 月 26 日（水）午後 2 時～4 時

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

ー セー 501 号室（渋谷区代々木神園町）

参加費：無料

問合せ先：(財)日本野鳥の会自然保護室 TEL 042-593-6871

●普及活動

1 月 26 日（日）比企郡小川町の小川少年自然の家で開催された野鳥観察会の室内講義と野外観察会で、後藤康夫・和田康男・青山紘一・

大澤祐が指導。その様子は 2 月 9 日午前 10 時 15 分テレビ埼玉の番組「県政」で放送されました。

●ごめんなさいコーナー

1 月号『行事案内』欄で、袋づめの会をお知らせするのを忘れてしまいました。『連絡帳』欄を見てご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

●3月の事務局 土曜と日曜の予定

1 日（土）4 月号編集作業。研究部会議。

8 日（土）4 月号校正。

15 日（土）袋づめの会。

16 日（日）役員会

●会員数は

2 月 1 日現在 2,611 人です。

活動報告

12 月 26 日（木）、1 月 20 日（月）本部の職場システム検討審議会に出席（楠見邦博）。

1 月 8 日（水）本部の常務会に出席（海老原美夫）。

1 月 19 日（日）役員会議(司会:倉林宗太郎、各部の報告・「干潟を守る日 2003」への参加・その他)。

1 月 17 日（月）支部報のみの会員宛て 2 月号を郵便局から発送（倉林宗太郎）。

編集後記



1 月 3 日さぎ山記念公園探鳥会后、雪が降り出した中での懇親会。少々クレイジーだったけど、面白かった！（海）

しらこぼと 2003 年 3 月号（第 227 号） 定価 100 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒336-0012 さいたま市岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社